

三中だより

令和4年度 10月号



令和4年10月7日発行
荒川区立第三中学校
(学校通信 No. 9)
校長 小柴 憲一

再開することの大きな意義

10月22日(土)輝汐祭舞台の部が開催されます。

昨年度までの2年間は新型コロナウイルス感染症の影響により、合唱コンクールを実施することはできませんでしたが、7月の三中だよりでもお知らせした通り、今年度は再開する予定で実施要項を作成し、音楽の授業内での練習を始め体育館におけるリハーサルも行います。

合唱コンクールというのは、学校の中で受け継がれていく行事だと私は考えています。声質が落ち着いてきた中学校3年生の美しいハーモニーで迫力があり、かつ表現力豊かな合唱を聴いて、1・2年生は「3年生の合唱がすごい。いつかあんな合唱をしたい。」という感想をもち、1年後にかつての1年生は2年生らしい合唱ができるようになり、2年生は学校を代表するすばらしい合唱をつくりあげることができるようになるのです。

残念なことに、2年間の合唱コンクール中止は、今の3年生にいい合唱を聴かせることなく進級させていってしまいました。さらに、音楽科の授業でも2年間は合唱を行うことができずに、合奏や楽典、リズム取りなどの学習しかしていなかったため、大人に近づいた声質による発声の仕方を一切学ばずに今年度を迎えています。1・2年生も同様で、小学校から歌うということを経験してきていません。

さらに、マスク生活は大きな声を出すことを抑制してきたため、子どもたちの発声のボリュームを大きくすることは困難な結果となりました。当然、模範となる合唱をCDで鑑賞させたりなどの工夫はしましたが、無理を強いる指導は返って子どもの負担になると考え、歌うことを楽しみハーモニーの調和を美しいと感じることができるような指導を心がけてきました。

したがって、過去の本校の合唱コンクールを知っている保護者の方からすると、ライブ配信でも歴然とした違いを感じられることだと思います。

しかし、どうか「残念だ」とは思わないでください。近い存在である上級生のすばらしい合唱に触れてこなかった子どもたちにとっては、今の合唱が彼らにとっての「合唱」なのです。そして、子どもたちは子どもたちなりに、指導を受け、自分たちで工夫しながら練習し、自分たちでつくりあげようとした努力の範囲内の「最高の合唱」を表現しているのです。

そして、今年度合唱コンクールを経験した子どもたちは、達成感・成就感を味わうとともに反省・後悔が残ることと思います。それが、次回へのバネとなり、来年度の今頃は違った学級編成の中で同じ反省や後悔をしないように取り組むことでしょう。そのときは、きっと模範となる合唱をCDで聴いたときには「どのようにしたらこのような表現ができるのだろう」「クラスみんなの気運を高めていくためにはどんな声かけをしたらいいのだろう」と考えながら、今年度以上の工夫をするとともに悩むことも多くなると思います。

こうして、数年がかりで一つの伝統というのは再生されていくのです。

成果はともあれ、「実施したという実績」が最も重要であり、今年度は、再開したことに大きな意義があるのです。

次頁で各学級の曲名、指揮者・伴奏者・実行委員・パートリーダーを紹介します。

なお、三組の子どもたちは交流学級に入って合唱をします。

	曲名	指揮者	伴奏者	実行委員	ソプラノ パートリーダー 副パートリーダー	アルト パートリーダー 副パートリーダー	テノール パートリーダー 副パートリーダー	バス パートリーダー 副パートリーダー
1A	絆	渡辺 麻由	桑原 希	中野 陽来 湯浅 梨央	高瀬 璃咲 桑原 希	辻 里紗子 矢嶋 優亜	小林 佑光 三和 悠人	
1B	変わらないもの	佐々木 友花	徳原 璃人	矢合 潤成 鈴木 希果	下野 紗和 竹内 春花	弘松 帆夏 杵島 輝	南 澤準 中村 嵩	
1C	怪獣のバラード	渡辺 那由	中尾 柑椰	佐藤 秀亮 石井 美月姫	高田 百花 山口 玲菜	長谷川 綺香 加藤 アンジェ	大越 響心 時松 煌英	
1D	マイバラード	鈴木 優実	桑田 悠愛	高橋 海翔 伊藤 舞帆	伊藤 舞帆 加島 彩花	杵島 希 高橋 まりな	上野 優真 澁谷 厚ノ輔	
1E	大切なもの	白石 橙哉	寺岡 くるみ	山根 琉獅 二藤部 陽織	酒井 希美 尾関 日菜	水藤 雪峰 西原 悠莉	白石 橙哉 松月 莉仁	
2A	HEIWA の鐘	原田 匠実	川崎 結衣	吉澤 元気 古谷 華蓮	古谷 華蓮 五十嵐菜々花	木村 美咲 田邊 結月	飯島 翼 西久保 冬馬	
2B	行き先	山本 さくら	山下 莉菜	渡邊 奏志 田中 水晶	田中 水晶 井上 日葵	島田 紗羽 原田 凜	鎌田 進太郎 鈴木 紳一	
2C	輝くために	張 奕謨	塚田 樹里	張 奕謨 原田 向日葵	奥田 陽和 高橋 ゆい	原田 向日葵 近藤 美羽	張 奕謨 山生 悠善	
2D	Tomorrow	清野 まいあ	秦 柚葉	森本 優輝 ○秦 柚葉	小嶋 凜香 永井 杏奈	清野 まいあ 秦 柚葉	本山 敢大 川口 透和	
2E	明日へ	菅野 颯翔	佐伯 日花莉	鈴木 暖 鈴木 万由華	渡邊 彩恵 加藤 里紗	落合 翠 木村 律	鈴木 暖 古橋 蓮人	
3A	あなたへ	菊地 総一郎	柴山 二湖	鈴木 柊駕 安達 泉奈	阿部 心深 山根 彩仁珈	安達 泉奈 朝日 花怜	鈴木 竜丞 鈴木 柊駕	森 陽生 新井 大翔
3B	予感	岸 翔遠	元木 夏美	疋田 脩人 ○鈴木 莉椰	武政 美結 元木 夏美	張 睿洵 三上 ののか	小林 慧悟 二宮 奏太	間中 新太 寺澤 拓海
3C	時を超えて	岩堀 笑心	清水 百音	今沢 翔太 ◎岩堀 笑心	田尻 夏葵 清水 百音	井上 里菜 松野 ほのみ	下田 魁士 山田 陽	今沢 翔太 酒井 翔大
3D	生きている証	鴨崎 悠太朗	野上 裕貴	河田 颯弥 南 來天	菊澤 真結 加藤 あめり	森田 葵生 並木 衣萌	田嶋 優太 西藤 光希	野上 裕貴 木谷 剛尚

※ 実行委員の◎は委員長、○は副委員長

連合体育大会から考えさせられた「中学生らしさ」

「～らしさ」とはその人の主観によるものなので、人それぞれ考え方は異なるということを、まず申し上げておきます。

先月開催された第74回荒川区立中学校連合体育大会で、各校の代表中学生の立ち居振る舞いや活躍ぶりや応援する様子を見ていて、「中学生らしさとはどんなものなのか」について、改めて考えさせられてしまいました。

まず、本校の30名の代表選手や選手係は、常日ごろから標準服はきちんと着こなしており、頭髪はさっぱりと清潔にしている、見た目には目に止まってしまうような特異な状況ではありません。しかも、授業には積極的かつ真剣に取り組むとともに、委員会や係活動では自分の役割に対して責任をもって果たしたり、ボランティア活動には意欲的に参加したりする子どもたちもいます。

江戸川区陸上競技場で会った他校の中学生たちも、学校指定の体育着をきちんと着こなしており、頭髪も目立つことなく一見目立ってしまう選手や選手係は見られませんでした。しかし、トラック周りですれ違うときは、気持ちのいい挨拶をしてくる選手たちがいて、本校の子どもたちを含め、参加する種目に対しては全力で取り組み、記録や順位はどうであれその結果を素直に受けとめている姿は、とてもすがすがしく感じました。

私は、それらの姿が「中学生らしい」というものではないかなと感じました。

大人になればなるほど、個人の価値観を服装や頭髪などで表現するようになるのは自然なことです。ただし、結果が分かりきっていれば努力の程度をさじ加減したりするようになっていたり、結果に対して自分を卑下したり、自分の成績に対して言い訳をしたりする人が多くなってくるように感じます。確かに、年齢が上がれば上がるほど経験値が多くなるため、「周囲がどうであれ自分の価値観を自由に表現することは決して非難されることではない」「無駄だと分かっていることに対して努力を費やすより、成果として表れる方に力を入れる方が効果的だ」と考えるようになってともに、納得のいかない結果に対しては自分を納得させるような手段を身に付けていくのも事実だと思います。

私たち学校が、先に述べた中学生らしい姿に子どもたちを育成していこうとする背景には、子どもたちが中学校を卒業後の進路決定の時期になったとき、進路先はどのような「中学生らしさ」を求めているのかという視点があります。例えば、「高等学校は受験の際、どのような受験生を入学させたいと思っているのか」という課題を考えたとき、ほとんどの中学校で定められている「生活のきまり」の基準の一つが設定されてきます。

しかし、この「生活のきまり」も時代に応じて修正されてきています。本校でも、ここ2年間では「個人の価値観の尊重」「プライバシーへの過度な侵害防止」などの視点から修正してきました。具体的には、特定の髪型の名称を出してそれを「禁止する」という表現から、名称は出さないとともに「・・・が望ましい」などのように、読みようによっては「何でもいいのか」と受け止められてしまうようになっています。しかし、先に申し上げたように進路決定、受験を考えたときに特異な着こなし方や髪型にすることについて、保護者の皆様はどのようにお考えでしょうか。

さらに、「私はこれが中学生らしいさっぱりとしたものだと思う」と自分の価値観のように主張しておいて、受験のときには特異な姿を修正するとしたら、それは中学生らしさなのでしょうか。

私個人としては、大多数の子どもたちが自分のデザイン・ファッション感覚がありながらも、学校の秩序を維持したい、進路決定・卒業までの生き方を貫きたいという思いで、一定の我慢をしている中で、そのような生き方は中学生として望ましくないのではないかと考えてしまいます。

保護者の皆様にも様々な価値観があり、それぞれのお考えがあることと思います。

自己の責任をすべて自分自身で負わなければならない成人と、すべての責任を負うことのできない未成年との違いも観点に入れて、私自身も「中学生らしさとは何なのか」という人それぞれの主観により異なる大きな課題について、これからも考え続けていきたいと思っています。

新たな生徒会本部のスタート

10月3日(月)に生徒会本部役員立候補者の立会演説会と選挙がありました。

役職によって信任投票で決まったり、決選投票で決まったりと、当選に至るまでの道のりは異なりましたが、まずは立候補した子どもたちが大変立派だと思います。

立候補すること自体がとても勇気の必要なことですし、さらに自分なりの公約を掲げることは役員になる自覚の表れであるとともに、生徒会活動という自治活動への意欲の表れです。

選挙の結果、当選・落選はありましたが、このような子どもたちがいるということが三中を支えているのです。当選した子どもたちは落選した人たちの分も努力しなければならないと思うとともに、公約を果たすために前向きな活動をすることでしょう。また、落選した人たちはその結果を受け入れ、自分にできる生徒会活動の役割を模索することと思います。だから、三中の自治組織はより強くなっていくのです。そして正義が通り、公平・公正な生徒会活動が繰り広げられていくのではないかと考えます。

ただし、まだ2年生は3年生ほどの牽引力は発揮できません。

今の3年生もそうでしたが、最上級生になるまでは3年生の支援と支持を受けることにより、少しずつ自信をもって活動していくことができるようになります。

以下、新たな生徒会本部のメンバーを紹介します。

役 職	年 組	氏 名
会 長	2-E	渡邊 彩恵
副会長	2-A	古谷 華蓮
	1-E	二藤部 陽織
書 記	2-E	落合 翠
	1-B	竹内 春花
庶 務	2-A	五十嵐 菜々花
	1-D	伊藤 舞帆

お知らせ

- 第71回荒川区民体育大会・バドミントンの部で以下の成績を収めました。
中学生女子シングルス 第3位 川崎 結衣(2年)
- 新人バレーボール大会で以下の成績を収めました。
第2位
- 令和4年度防災検定において、本校防災部外火の成績を収めました。
3級合格 加藤 愛子(3年)【防災自由研究優秀賞受賞・家族防災特別賞受賞】
風間 琉聖(1年)【防災自由研究優秀賞受賞】、早川 涼太(1年)、朝日 心菜(1年)、
小松 晴(1年)、柴田 真衣(1年)、石井 湊大(1年)
- 第75回東京都中学校支部対抗陸上選手権に荒川区代表として以下の選手が選抜されました。

1年		2年	
氏名	種目	氏名	種目
松田 理希	1年女子4×100mR	大橋 由菜	2年女子100m 共通女子4×100mR
杵島 輝	1年女子4×100mR	山本 さくら	共通女子200m 共通女子4×100mR
今井 希美	1年女子100m 1年女子4×100mR	バログン ハル	共通女子200m
加藤 アンジェ	1年女子100m 1年女子4×100mR	伊東 ジャスティン	2年男子100m